



代沢九条けいじばん

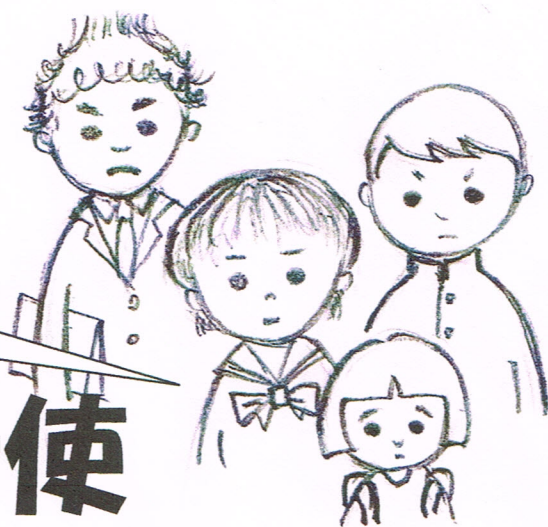
第30号
2014年12月8日発行
代沢九条の会
(代沢1-22-3)
Tel&Fax (3411-3607)

日本には、さまざまな人がいて、さまざまな考え方がある。それでも、根っこに九条をおく。

安倍政権が
すすめる

行くのは
僕たち？

日本はほんとに
戦争するの？



集団的自衛権行使 は海外で戦争すること

11月16日の沖縄県知事選挙では
沖縄には基地はいらない
と主張した 翁長雄志氏が圧勝！

ひとつになった沖縄の人たちに
学びたい！

12月14日は衆議院議員選挙

秘密保護法を成立させ、閣議決定で憲法の解釈を変更
して集団的自衛権を容認し、武器製造と武器輸出を解禁
し 辺野古の基地建設を推進し 原発再稼働と原発の
輸出をすすめてきた 安倍政権 そしていう
『この道しかないんです』

選挙では この思いをこめよう

私たちは戦争してはいけません！

命を大切にする平和な国へ向かう道はどっち？

代沢九条の会とは？

73年前の12月8日に突入した泥沼の戦争で失った たくさんの
悲しい命を無駄にしない道はどっち？
私たちに本当の幸せをもたらす道はどっち？

憲法9条を守ることが大切だと考えている代沢地
域に住む人たちの集まり。大江健三郎氏、澤地
久枝氏らの『九条の会』の呼びかけに応じて、独
自に憲法9条を守る活動を行っています。『代沢
九条けいじばん』を年4回発行し、駅頭や戸別に
配布しています。

あなたの一票は貴重な一票

ここは ゆずらない 結果はついてくる！

フリートーカーの会

世田谷・九条の会 9周年のつどい

1月18日(日) 13:00~15:00
代沢東地区会館2階小会議室

「経済の視点からみた憲法の価値～経済活動は人間の営み～」

同志社大学大学院教授 浜 矩子さん

* 合唱: 合唱団この灯 (連絡先 03-6413-9547)

とき: 2014年12月14日(日) 午後1時45分~4時(開場1時15分)

ところ: 世田谷区民会館・2階集会室 会費: 800円 (学生500円)

3ヶ月に一度の、自由に世の中を語る会
です。会員以外の方も大歓迎です。前回は
『従軍慰安婦報道をどう見るか』など話し合
いました。ぜひご参加ください。

URL: <http://www.7b.biglobe.net/~daizawa9j/>

フリートーカーの会





沖縄通信 ～沖縄を、取り戻せ！

2014年11月16日(日)沖縄県知事選挙が実施され、翁長新知事が誕生しました。当選した翁長氏(前那覇市長)が36万票。現職知事の仲井真氏が26万票。その差10万票の圧勝です。1972年の日本復帰以降、保守対革新という政治構図の中、今回初めて、保革を乗り越えたところで結びついたオール沖縄の願いが、翁長新知事を誕生させました。

選挙のときには、「信を問う」とよく耳にしますが、沖縄県知事選挙が問うたものは何でしょう？ それは、保守でも革新でもなく、一人の人間としての尊厳を守ることであり、基地と戦争のない平和な社会を実現することです。

そして、その選挙結果を受け入れることができるか、今、日本政府に突き付けられています。日本の国土の約0.6%の沖縄県。日本の人口の1%強の約140万人の沖縄県。その民意は無視できますか？ 日本の民主主義のあり方、日本政府と、そして沖縄県外の人々が、沖縄の民意と真剣に向き合えるか？ 一県政にとどまらない大きな問いかけであり、日本のターニングポイントとなるものです。



～沖縄より実況中継～

・・・選挙期間中はどの陣営も、主要幹線道路の交差点周辺で自陣営ののぼりを掲げ、通勤途中の車に手を振り頭を下げ、支持を取り付けようと奮闘していました。ここにも、熱意と必死さを感じました。

・・・辺野古のキャンプシュワブ基地のゲート前に新基地反対テント村がありますが、その前の道路を通り過ぎる車から手を振る人たちの数が、選挙前は半分以下だったのが、翁長新知事誕生後、8割くらいの車が手を振って応援してくれるようになりました。ここにもオール沖縄の民意の強さを感じます。

(沖縄在住 岩村利一・幸子)

2012年12月のマニフェストと、2014年12月の今

1. 経済を取り戻す。TPPは反対 → 来年には妥結。
2. 教育を取り戻す。教科書検定 → これからは道徳の時間。
3. 外交を取り戻す。独自の外交 → 集団的自衛権行使容認。武器輸出開始。
4. 安心を取り戻す。生活と資源 → 生活保護費の引き下げ。原発は再稼働。

そしてこれからは、すべて、ヒ・ミ・ツ！ (イワンの馬鹿)

私の戦争体験～そのとき16歳の少年は～(1)



私の周りから昭和ひと桁生まれが年々少なくなり、戦争の語り部がいなくなりつつある。昭和20年8月15日、私は16歳であった。

旧制中学3年生の五月から学校の授業はなく、大森駅周辺の建物疎開の作業に従事させられた。解体職人が引き倒した家屋を大学生の指導で片付けるのである。ブルドーザーやトラックが使えないのですべて人力でやらざるを得なかった。これは米空軍の空襲に備えての防火対策であった。

続いて8月からは大森山王の丘陵の横穴防空壕掘りをやった。またしても肉体労働。わが中学校は六本木にあったが、毎日大森駅で降り、作業場へ通った。掘っているのは本職が少数で、飲食業や洋品店など軍需産業以外からの徴用(国が国民を強制的に動員し一定の業務に従事させること)された大人たちであった。トンネル内は上部の土の落盤などがあり危険な場面がしばしばあった。中学生はトロッコに積んだ土を外へ運ぶことが仕事だった。(次号につづく)

(土屋光男 1929年生)

沖縄県知事選挙の結果から思う

保守、革新を超えて「オール沖縄」の翁長さんの圧勝は、言葉は悪く軽くなってしまうが、久方ぶりの小気味よい結果だった。沖縄現地で生活する人でなければ判らないほどのつらい、長い現実の生活から到達した「共通の獲得したいこと」の一致から誕生した戦う陣容と結果なのであろう。同時に行われた県議補選も知事選を戦ったと同じ陣容で闘われ、良い結果を獲得した。

現在の国会の中の政党状況は、どこに政策のちがいがいいのか、元をたどれば同じ政党から出ているではないか、と思ってしまう政党の乱立である。選挙前も選挙後もしばらくは離合集散を繰り返すであろう。こんな政党を選ぶのは無責任の類に入ると思う。しっかりした政策を持ち、浮き草でない政党を選択することが大切だと思う。(高田)

日米野球と日米安保

日本のプロ野球選抜チームと、アメリカ大リーグ選抜チームの試合が日本で行われ、日本チームが数十年ぶりで勝ち越したことがニュースで取り上げられていました。

しばらく前までは、アメリカ大リーグには日本プロ野球チームは歯が立ちませんでした。最近では、日本選手もアメリカ大リーグの選手の一員として活躍しているように、野球は日米間の力の差が拮抗(キッコウ)するようになりました。

一方、日米安全保障の問題では、差が縮まるどころか、「思いやり予算」等で日本側の負担は増え続けています。野球の力が拮抗しているのには、日本野球界の大きな努力があります。日米安保条約は、日本の努力が足りないどころか、一方的な譲歩が続いています。この2つの大きな違いは、なぜなのでしょう？(松尾弘)

『戦後レジームからの脱却』とは？

安倍首相が良く使うこの言葉は、戦後の体制を引きずるのはそろそろ終わりにしようぜ～ということを手紙を使ってかっこつけて言ってみた・・・というところらしい。引きずっている最大のもは現憲法で、安倍政権は特に憲法9条は、即刻変えたいと思っている。

戦後の体制は戦勝国のアメリカから押し付けられたもので、戦争に負けなければこんなことにはならなかった。戦前の日本にあった良き伝統はむしろ継承すべきものだ・・・というのが彼らの本心だと推測される。そしてなぜか、無条件に、日米軍事同盟の結束をますます強めたいという。

戦後ずっと引きずっている敗戦国の象徴とは、ごく自然に考えて、在日米軍基地だろう。独立国である日本の中に日本の法律が通用しないアメリカが自由に使える敷地があるのはおかしい。これまでは多額の交付金で封じ込め、沖縄をはじめ、地域の住民に我慢を押し付けてきた。それが『国策』だった。その点では原発も同じ。

もう我慢するのはやめようと思った沖縄に人たちとともに、国民が大事にされる国に変えていく方策を練りに練る。選挙後に来るかもしれない大波にのまれることなく。(松田K)